

小学校高学年基礎教科(国語・算数)担任制の導入

ー 仙台市の現状と課題 ー

仙台市(幼3, 小123, 中65, 高6)では, 平成18年度からモデル校(希望・採択11校)で, 講師配置を伴った小学校高学年基礎教科担任制を開始しており, 本校も, 5・6学年の教科担任制に取り組んでいる。

1 教科担任制にかかわる国の施策の経緯(概要)

- 2001年「文部科学白書」……「教職員定数を活用したきめ細かな指導の例」として, 静岡県浜松市の教科担任制の事例が示されている。
- 2002年「学びのすすめ」……きめ細かな指導の取組の一つとして, 「小学校において, 教員の得意分野を生かした教科担任制を導入する」との一文が見られる。
- 2006年「中教審審議経過報告」……「発達や学年の段階に応じた教育課程編制や指導の工夫」の項目で「教育方法の面において, 小学校高学年における教科担任制について検討することが必要である。…後略」とある。

2 仙台市小学校高学年基礎教科(国語・算数)担任制モデル事業の概要

(1) 趣旨

教師の専門性を生かして小学校高学年における基礎教科(国語・算数)担任制を実施するために, 補充的かつ効率的な講師配置を行う。このことにより, 教科担任制の中学校生活への不安を払拭するとともに, 基礎教科(国・算)の理解の定着と分かる授業の実現を図り, 「確かな学力」向上の推進に資する。

(2) 実施方法

- ① 小学校高学年基礎教科(国・算)担任制モデル事業に決定した学校(11校)においては, 第5学年及び第6学年の両方または一方の基礎教科(国・算)について, 少なくとも1教科の教科担任制を実施し, 「分かる授業・楽しい授業」の実現を図るという観点から次の取組を行い, 確かな学力の向上を図る。
 - ア 個に応じた指導をより充実させるための工夫改善
 - イ 児童一人一人に学習意欲を持たせるための工夫改善
 - ウ 適切な評価の工夫
 - エ 教員個々の週授業数均一化のための工夫
 - オ その他

- ② モデル校は, 教科担任制による学習面及び生活面の成果や効果並びに課題等を最終的には年度末にまとめ, 所定の期日までに教育委員会に報告する。

(3) 期待される効果

- ① 「学力向上」: 一人の教師が同じ授業内容を複数学級に行うことで授業の質が高まり, 学習する子どもの理解も深まる。その積み重ねによって教師の指導力が高まり, 子どもの学力も向上する。
- ② 「生徒指導」: 複数の教師の目で子どもを見ることができ, 児童理解に有効であるとともに, 課題を持つ子供を担任一人で抱えることなく, 学年や学校の教職員全体で見守る体制が構築できる。
- ③ 「中学校への円滑な橋渡し」: 学級担任制から教科担任制というシステムの変化による不安など, いわゆる「中1ギャップ」が全国的な問題となっているが, その防止も期待できる。

3 モデル校の現状(教科担任制実施後2か月経過時点)

(1) 効果があると思われる点

① 学習指導面

- ・一定の教材研究時間の確保のもと、改善的に同じ授業を数回行うことで、子どもの興味・関心に配慮したり授業の質を高めたりすることができる。
- ・時間割を勝手に調整できないので、教師は計画や時間に沿った授業を心がけるようになる。
- ・教師が得意教科を担当することにより、授業が楽しくなったという子どもの反応が多く聞かれる。
- ・計画的な指導や学級による偏りのない適切な評価が行える。

② 生徒指導面

- ・複数の教師の目で子どもを多面的に見ることにより、多様な個性を引き出すことができる。
- ・担任以外の教師が入り替わることにより、学習にメリハリや緊張感が生まれる。
- ・児童は、担任外の教師とのかかわりを通して、多くの教師と安心感を持って接することができる。

(2) 問題と思われる点

- ・教科担任制の場合、一人当たりの担当教科が多くなると時間割の作成が困難になり、変更も容易ではない。
- ・担当学級とのかかわりが減るため、生徒指導面での指導が徹底しにくい。
- ・教師は児童理解に時間がかかり、子どもは苦手の先生には質問しづらい状況が生まれる。

(3) アンケートにみる子どもの意識調査の概要(仙台市立七郷小学校6年児童115名)

① 教科担任との学習について、是とした割合の高い項目(4段階評定のうち4と3の占める割合)

- ・授業は分かりやすい(83%)
- ・ノートにきちんと書くようになった(82%)
- ・授業は楽しい(80%)
- ・学習用具を忘れることが少なくなった(80%)
- ・授業の教え方が違うので、いろいろなことが学べる(77%)

② 教科担任との学習について、是とした割合の低い項目(4段階評定のうち4と3の占める割合)

- ・自分の考えを発表しやすくなった(43%)
- ・授業前に教科書などを準備するようになった(46%)
- ・勉強したいという気持ちが強くなった(48%)
- ・家で勉強する時間が増えた(55%)
- ・家で話題にすることが多くなった(55%)

4 今後の課題

- (1) 教科担任の指導による学力の向上を把握するための方法の検討
- (2) 担任児童へのきめ細かな対応の工夫
- (3) 担任と教科担任との打ち合わせ及び情報交換の持ち方の工夫
- (4) 時間割の作成方法や変更の調整方法の確立
- (5) 各校の実情に応じて、教科担任制を定着させ効果を上げるための手だて

研究協議の要約

- ・派遣された非常勤講師は、後補充として活用している。後補充のものが授業をしている間、担任はその時間を教材研究に利用できる。
- ・今回は位置された講師は、校長の判断で別の目的に使うことも可能である。従って校内の状況に応じた運用が図られるため考えやすい。
- ・この学校に赴任して4年になる。教科担任制は、すでに5、6年はやってきていた。この学校に着任後、職員の様子をみていたが、教科担任制でやっていくことを楽しんでいて、そして、次の年もあたらいまえのように教科担任制で取り組んでいた。すなわち、教科担任制は、その学年が主体的に取り組んでいたのである。そして、今回のモデル事業を職員に話したとき、職員から積極的に事業を受けようという話しになった。
- ・一方担任らは、国語を手放したくない。国語をしたいという意欲を持つ先生が多いのである。
- ・教科担任制は条件が整っていなかったにもかかわらず、やってみたいという意欲を持つ先生が多かった。市教委は、国語、算数だけでなく、社会、理科など国語、算数以外の教科にも取り組んでほしいという意向を持っている。
- ・現段階では、自分の好きな教科に応じて取り組んでいる。また、意欲を持ったものは、これを機会に勉強させることもできる。
- ・教科担任制は全校的な体制が必要などときがある。そのためには、中学年で、1つでも2つでも教科担任制に取り組んでみる必要がある。
- ・学級担任制と教科担任制のシステムの両面を生かすことを考えたい。
- ・教科担任制で、算数をしながら学年主任もするような配置も考えている。このことによって、効果的な学年経営が期待できる。
- ・低、中学年とのかねあいの問題だが、本校では高学年の希望者が少ないので、加配教員を高学年に配置することによって問題は起こっていない。校務分掌でも、相互のバランスが保てるよう配慮している。

○参加者の意見

- ・教科担任制は、子どものメリットを考えるとよいものであると思う。
- ・小学校では、全ての教科を指導しなければならないが、不得意な教科が出てくるのではないかと心配する。担任の指導力が問われるであろう。
- ・若手教員が教科担任制に取り組むとき、その教員に力がかからない可能性がある。研修体制の充実が望まれる。
- ・人事異動のときにも教科担任制の特性を考慮してもらえたらありがたいと思う。
- ・名古屋では教科担任制に関する教員は人材バンクから紹介を受けている。教科の特性に応じた人材確保を望んでいる。
- ・千葉市では全体の取組はない。校長の裁量で生活指導的なねらいで教科担任制をしたことがある。
- ・教科担任制を行おうとするとき、職員の共通理解を得るのが大切である。
- ・東京では、それぞれの先生の専門性を生かすため、理科、家庭、社会でやっている。
- ・教科担任制を行う場合、人事確保が大切になってくる。すなわち、専門性を持った教員が配置されなければその効果が期待できない。
- ・6年担任の持ち時間が21時間で、3、4年の方が持ち時間が長い。こうした状況は校内のバランスにも配慮が必要であろう。